

もう一つの鍼灸学 半身症候鍼灸法

半身症候鍼灸法研究会代表 茂木 昭

日本に真の鍼灸を打ち立てる志ある鍼灸師、出でよ！

それは多くの疾患、病者を救う日本国民が渴望している医療である。

1. 鍼灸治療の位置づけ

医療の主流である病院医療が限界を露呈してから久しい。国民が多くの疾患で現に苦痛を有しながら異常は無い、あるいは異常があれば歳のせいだと告げる。それに対し鍼灸師は、現在の病院医療がきわめて多くの疾患に対処できていない現実と、多くの国民が抱える病苦に関心を持つとせず、それを補うのが東洋医学だという。

西洋医学的病院医療は、一部の分野を除き慢性疾患を中心にきわめて多くの疾患、病者を救えず、多くの国民が悲嘆に喘いでいる。それに対して日本鍼灸は如何なる位置づけにあるのだろうか？

隣国中国では、西洋医と同資格の医師により鍼灸医療がなされ、鍼灸が補完・代替医療とはならず、医学界の一分野の鍼灸科としての医療に位置づけられている。この点、日本鍼灸は正統医学である西洋医学的医療の下で、西洋医学的医療の不得手とする分野でのみの補完的存在にあり、臨床面においても西洋医と同等レベルの臨床医療行為者としての自覚が欠けていると言わざるを得ない。

ここで主張したいのは鍼灸が資格上ではなく、臨床上まで西洋医と同等レベルの臨床医療行為者としての自覚がないのははなはだおかしく、それは同時に中国での中医鍼灸以上の効果を挙げていないことをも是認していることにもなるのである。

では国民から全面的信頼を得られない現代医療の現状に対し、それを打破する医療は今後、出現しないのだろうか？

否、すでに存在している。それは鍼灸である。しかし、これはもちろん従来から知られてきた鍼灸法のことではない。残念ながら医師による西洋医学的病院医療サイドからは、制度上の問題がありこの鍼灸による大変革は期待できない。

本来、鍼灸はきわめて副作用のない治療法であり、積極的な対症療法をせず、生体に対する侵襲もきわめて少ない。そして皮膚のごく一部に切皮した刺激は、特定のある理論に基づいた場合には、驚くべきことに人体全組織の機能を向上させることができるのである。国内の病院にも一部、鍼灸科がある。しかし、これは中国での中医による鍼灸科とは違い、医師の指導下に行われる補助的医療、あるいは鍼灸の医学的基礎データ集積の場として扱われているに過ぎず、臨床効果面でも医学のお墨付きはあっても、決して開業鍼灸師を凌いでいるとは評価されていない。

病院医療における代替・補完的医療ではない鍼灸、あるいは個人開業鍼灸の肩こり・腰痛治療レベルの健康管理医療でもなく、西洋医学的病院医療が限界となっている多岐にわ

たる疾患に対して確実に効果を上げ、臨床面で病院医療と肩を並べる正統医療としての鍼灸法あるいは病院医療を凌ぐ鍼灸とはどのようなものか？それは同時に長く国民が待望している医療である。

それは可能性の段階ではない。既に半身症候鍼灸法として完成している。平成5年創案以降、83,000例のデータが証明する治療学である。鍼灸適応症という自らの鍼灸医療を矮小化し、わずかな得意疾患のみに対処しようとする鍼灸法ではない。我々、半身症候鍼灸法研究会で学び修得した鍼灸師により、病院医療における多くの分野で画期的効果を上げているのである。

臨床面で競うことを忘れたとき、その鍼灸はいかに発展性がないか知る必要がある。なぜなら、鍼灸師、鍼灸学生ともにただ、提示され与えられた鍼灸世界を知るだけからである。より効果、向上を求める鍼灸家なら、なぜその可能性を探求しないのだから？身近にある鍼灸法を検証することもなく、その理論を学ぶだけではその目的は達せられない。

半身症候鍼灸法研究会では、平成11年の公開以来、常に臨床効果を公開し、鍼灸臨床効果の可能性を示してきた。半身症候鍼灸法研究会では、多くの鍼灸師及び将来、志を抱く鍼灸学生に、日本における臨床面での正統医療としての鍼灸を指導し、年に1~2回、半年コースで学んだ鍼灸師を世に送り出している。日本鍼灸を根本から改革したいという、鍼灸師のための鍼灸ではない、真に国民のための医療として鍼灸を真摯に受け止める志ある鍼灸師、鍼灸学生を募っている。

この新鍼灸医学は現状の医学理論だけの治療理論、および鍼灸古典理論のように思考法だけでは理解できない。生体を一定レベル以上深く知るための医学理論は、身をもって生体を理解できていかなければならない。そのために体の感性を向上して行かなければならないのである。カイロプラクティック等の手技治療法を思えばわかることだが、骨格可動性テスト(モーションパルペーション)において理論だけ知っていてもなんの診断もできないことを鍼灸師も知らねばならない。鍼灸治療に最も要求され、しかも欠けているのが鍼灸における手技治療観である。そして鍼灸理論は同時に感覚で実証できて行くものでなければならぬ。自己の感覚で知り得ない理論は他人の理論である。そして一定の理論を理解できたうえでなければその上の、あるいは深い理論を知ることができない。半身症候鍼灸法研究会で学ぶと、ようやく疾患、病の実態が見えてくるはずである。そして、難なく、高確率の治療により多くの疾患に画期的効果をあげることができるのである。

より効果、向上を求める鍼灸家なら、実際の効果を見聞し、探求する前向きな度量を持たねばならないだろう。

2. 半身症候鍼灸法研究会での指導方針

多岐にわたる分野の臨床面で病院医療を凌ぐ鍼灸法ではあるが、この鍼灸法を無条件にすべての鍼灸師、鍼灸学生に指導するという事は難しい。我々は、既存の鍼灸法及びそ

の他の医学において未知の、数多くの臨床上きわめて重要な、人体機能理論及び治療理論を発見している。しかし、それらを指導するためには自ずと条件がある。

既存の鍼灸法に疑問を感じていること。

現行の鍼灸法に疑問がなければ新鍼灸法を学ぶ根拠が無いからである。また現行の鍼灸法からなんの疑問を感じられないレベルの医療的感性では、新しいこの鍼灸法を理解できない。新しい技と理論の指導には、学ぶ者がその治療法に前向きであること。そのうえで理解可能なレベルまでしか指導できないのである。従って多くの高度の技、理論を修得するためには、それを受け入れ可能なレベルまで順次、技量の向上を図らなければならない。技量の向上が得られた者に、更にその上の技、理論を指導できるのである。終始学ぶ者に必要不可欠なものは、最高を追求する志である。

志とは、病苦にさいなまされている人々に対して、自己に妥協することのない心を所有していることである。この治療家としての志のない者に、この半身症候鍼灸法という高度鍼灸法を指導することができないということを理解してほしい。

新しい治療法を学ぶためには旧来の知識、理論にとらわれないこと。

古い皮袋に新しい酒を入れられないと言う。この項は 既存の鍼灸法に疑問を感じていること 志を持っていることで、自然に具備されることである。

3．臨床公開

半身症候鍼灸法研究会では、常に生の臨床を公開する。

半年コースの各開始前に無料説明会を開催している。

数ヶ月に 1 回の割りで無料説明会を開催する。希望者が開催定員に達したとき開催日を発表するので、ホームページで説明会参加希望をお申込みください。

4．見学会

研究会代表・茂木の治療室見学を受け入れます。

条件 前もって、茂木 昭著『生命のささやき』知道出版 定価 2,100(税込み)を読まれ、半症鍼の概略を理解していること。

条件 真剣な態度であること。こちらの指示に従うこと。

時間...約 30 分～1 時間程度。エネルギー的に患者の治療に差し支えるときはお断りする。白衣持参(上着だけでよい)。

5．参考資料

ホームページ上に掲載している。

書籍・茂木昭著『生命(いのち)のささやき』知道出版。定価 2,100 円(税込み)。

ビデオ・茂木昭監修『鍼灸現場シリーズ(半身症候鍼灸法)』たにぐち書店刊。定価 10,500 円(税込み)。実際の治療室での患者に対する臨床を 18 症例収録。この中には、犬の治療、音楽演奏の治療まで含む。実際の効果を見聞できる。